

CLEANTECH NEWS

毎年1・4・7・10月発行

株式会社 クリーンテック

発行責任者／反後 太郎

福島市飯坂町中野字赤落27番

TEL 024(541)2811



ISO 14001 認証取得
飯坂クリーンサイト

飯坂クリーンサイト

2026 VOL. 87
WINTER

す。これらは家庭から出るものと、事業者から出るもののがほぼ半分ずつとなつており、今の日本は単なる“もつたいない”太国“というレベルを超えた大きな問題に直面しているといえるのではないでしょ
うか？

さて今年は日本の食品廃棄の現状や課題、海外との違いについて考えてみたいと思います。ところで”フードバンク”というのをご存知でしょうか？フードバンクとは、まだ食べられるのに廃棄されてしまう食品を企業や個人から寄贈してもらい、それを必要としている人や団体に届ける活動のことです。日本でも最近は「食品ロス」という言葉が浸透してきましたが、まだまだ捨てられている食品の量は多く、2023年度の推計では年間で約460万トンにも上ります。これは理論上およそ730万人から1210万人が1年間に消費する食料量に相当します。最近の報告によると世界ではおよそ6億7300万人が恒常的飢餓にあると推定されているそうです。日本の食品ロスの量から推計すると年間で約11%（

新年あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願ひ申し上げます。



株式会社クリーンテック

後
反後太郎

”フードバンク“をご存知ですか？

それでも希望はあります。消費者庁や環境省、農林水産省は連携して食品ロス削減の基本方針を打ち出しました。近年、企業のESG経営の意識も高まり、「社会的価値を生む企業活動」として「食料の寄付」を取り入れる企業が増えています。また、自治体レベルでもフードバンク支援を通して、地域の学校や医療機関へ食料を供給する取り組みが進んでいます。

次に、寄贈される食品の内容では、半
や乾物に偏りやすく、たんぱく質、野
菜、乳製品などが不足しがちです。
さらに、運営体制やインフラの不足も
深刻です。多くのフードバンクはNPO
やボランティアで運営され、資金が不安
定で職員も無給や短期契約が多いのが特
徴です。冷蔵・冷凍設備や物流体制の整
備には大きなコストがかかり、活動の基
盤を妨げる要因となっています。

セーフティネットとして注目されるようになりました。代表的な団体である「セーフティネット」は、2002年に設立され、全国各地域のNPOや社会福祉協議会、子ども食堂などを通じて、困窮世帯などを支援しながら、企業から余剰食品を集め、高齢者、一人親家庭など困窮世帯に直接届ける仕組みを整えつつあります。また、食品ロス削減推進法が2019年に施行され、国としてもフードバンクを支援する姿勢を明確にしました。

くことが大切だと思います。

に頼るだけでなく、海外のように法制度や税制を含む「仕組み」として回る社会を目指すことが、これから日本に求められていくと思います。つまり、フレーバンクを“点のボランティア”から“面の社会インフラ”へと発展させることこそが、食品ロス削減と貧困対策の両立につながると信じています。日本の食をつなぐ仕組みを、次の世代へどう残していくか――私たち一人ひとりが些細でも身近な行動から何が出来るのか考え、実行していくことが大切だと思います。

これから日本が目指すべき方向として、大きく五つのポイントがあると思います。一つ目は、フードバンク同士や自治体、企業の在庫や需要を「見える化」し、効率的にマッチングできる仕組みを作ること。二つ目は、冷蔵・冷凍など多様な食品を扱うための物流・保管インフラを整備し、特に地域ごとの「冷たい流通網（コールドチェーン）」を強化すること。三つ目は、企業が寄付しやすくなるように税制や法的な枠組みを整えること。責任を限定し、善意が報われやすい環境づくりが必要です。四つ目は、単なる食料支援で終わらせず、生活困窮者の伴走支援と一体化すること。フードバンクを「生活再建への入口」として機能させることができます。そして、現場を支える人材を育てる。食品衛生やサプライチェーン、データ管理の専門知識を持つた職員を育て、活動を「プロフェッショナルな公共サービス」として確立する必要があります。

療機関、社会福祉法人などと連携し、「食の支援」を起点に就労や教育、住宅支援へとつなぐ包括的な支援の形も広がっています。



あけまして
おめでとうござります

本年もどうぞよろしく
お願ひいたします



クリーンテックへようこそ!

昨年も環境学習の一環として多くの方にご来場いただきました。見学中は、皆様が熱心に説明へ耳を傾ける姿が多く見られました。来場者の皆様からのご意見は今後の運営に活かし、地域の皆様に親しまれる、安全・安心な最終処分場を目指して参ります。皆様のご来場を社員一同お待ちしております。



■主な御来訪者 (2025年7月~2025年11月)

月 日	団 体 名	人 数
7月9日(水)	福島民報社「みんぼう社会科教室」	43名
8月4日(月)	福島市信陵学習センター「少年学級『信陵ジュニアカレッジ-SJC-』」	15名
9月9日(火)	福島市信陵学習センター「あづま男と淑女の会」	14名
9月17日(水)	福島市もちずり学習センター「もちずりレディース」	14名
10月27日(月)	福島市西学習センター「西ことぶき学級」	25名
11月11日(火)	福島民友新聞社「みんゆう社会科教室」	41名
11月13日(木)	一般社団法人実践倫理宏正会	14名
11月25日(火)	北信地区三地区町内会連合会合同研修会	32名

【お問い合わせ先】

窓口：株式会社クリーンテック 飯坂クリーンサイト
TEL：024-541-2811（担当：総務課）



◆株式会社
クリーンテックHP

「見学会についての問い合わせ」とお伝えください。

※見学会は4月～11月までの平日のみの開催となります。積雪等によりやむを得ず中止や延期させていただく場合もございますので予めご了承ください。

※ホームページからもお問い合わせ可能です。URL：<https://www.clean.ne.jp>

安全・安心のために

2025年5月22日、福島市廃棄物対策課が来場し、廃棄物(燃え殻)を採取されました。

検査結果は以下の通り、全て基準値以内でした。

福島市による燃え殻採取▶



燃え殻 (採取日 2025年5月22日)

分析対象項目(抜粋)	分析の結果(mg/L)	基準値(mg/L)
カドミウム	検出せず	0.09以下
シアン化合物	検出せず	1.0以下
鉛	検出せず	0.3以下
六価クロム化合物	検出せず	1.5以下
砒素	検出せず	0.3以下
総水銀	検出せず	0.005以下
アルキル水銀化合物	検出せず	不検出
PCB	検出せず	0.003以下

※福島市との環境保全協定に基づき、当社では、マニフェスト(産業廃棄物管理票)の確認や水質データの確認調査を定期的に受けております。

各行政機関による立入り (2025年9月～2025年11月)

月 日	行政機関	目 的
2025年9月1日(月)	福島県農林水産部森林保全課、福島県北農林事務所森林土木課	立入調査【林地開発許可変更届に伴う現地確認】
2025年9月9日(火)	福島県北地方振興局環境課	立入調査【産業廃棄物収集運搬業許可更新申請に伴う現地確認】
2025年10月20日(月)	福島市廃棄物対策課	立入調査【第一期・第二期放流水サンプリング】
2025年11月5日(水)	福島市廃棄物対策課	立入調査【第一期・第二期上下地下水サンプリング、廃棄物サンプリング】

法規定及び福島市との『環境保全協定書』に基づき、放流水の水質を定期的に測定しています。毎月2回測定(測定は外部専門会社へ委託)している以下の項目は、直近の3ヵ月(9月～11月)は法及び協定書いずれに対しても基準値以内でした。 ※3ヵ月で最も新しいデータ(2025年11月5日採水)

水質検査報告

	放流水(水処理後)		
	第1期測定値	第2期測定値	法規定基準値(※1)
BOD	1 mg/L未満	1 mg/L未満	60 mg/L
COD	6 mg/L	2 mg/L	
SS	1 mg/L	1 mg/L未満	60 mg/L
大腸菌数	1 CFU/mL未満	1 CFU/mL未満	800 CFU/mL

BOD ⇒ 水中の有機物が好気性微生物により分解される時に消費される酸素の量、少数値が良い

COD ⇒ 水中の有機物等を酸化する際に消費される酸化剤の量を酸素の量に換算したもの、少数値が良い

SS ⇒ 水中に浮いている直径2mm以下の粒子状物質の量、少数値が良い

※1 一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令

放射能管理状況

(2025年9月～2025年11月の3ヵ月実績)

測定対象		測定項目	測定頻度	測定結果(カッコ内は平均値)
場内	埋立場所	放射線量	毎日1回	0.04～0.11 μSv/h (0.07)
	処分場周辺	放射線量	週1回	0.03～0.15 μSv/h (0.08)
放流水	放射性物質量	月2回		不検出
地下水	放射性物質量	月1回		不検出
搬入廃棄物	放射線量	全車両		0.038～0.323 μSv/h (0.13)

2000年10月に入社した佐藤清隆さんは、重機操作のプロフェッショナルです。現在は飯坂クリーンサイトでの経験を活かして、「エコグリーンとちぎ」に出向し、埋立現場を牽引しています。



ベテラン社員の 人柄紹介 PERSONALITY

几帳面で愛妻家、
使命感あふれる
ストイックな職人



エコグリーンとちぎ
施設保全部 埋立管理担当
佐藤 清隆さん

開業当初は、廃棄物を搬入するトラックのドライバー様からもご助言をいただき場内の搬入経路を整備するなど、社員だけでなく多くの方々のご協力を得ながら飯坂クリーンサイトを創っていました。

少人数での運営だったこともあり、年に一度は社員旅行に出かけたり、社員の家族を旅館に招き会食を開いたりと、交流の場を大切にしていました。妻との結婚は、社内結婚第1号でもあり、現会長夫妻に人前式の仲人役をしていただいたことも良い思い出です。

重機オペレーターとして埋立現場に立った当初は、仕事をこなすだけで精一杯でしたが、経験を積むにつれ「やるからには綺麗にしたい!どこをみても綺麗な処分場にしたい!」と思うようになりました。

これからの現場を担っていく後輩たちにも、自分の仕事に自信と誇りをもち、この仕事は自分でなければいけないという気持ちで仕事に取り組んでいって欲しいです。